

☆ 新プランに掲げた重点施策等の平成19年度における主な取組

《第1章》子どものいのちと人権が大切にされるまちづくり

○ 市民・地域ぐるみで進める子育て支援の風土づくり

社会全体で子育てを支援していく風土づくりを進めるため、次の事務事業を実施します。

ア 子どもを共に育む京都市民憲章の推進 <予算額：7,200千円>

平成19年2月5日に制定された「子どもを共に育む京都市民憲章」の理念を日々の暮らしに生かし、より具体的な行動提起に移すための取組を推進します。

【保健福祉局 児童家庭課，教育委員会事務局 家庭地域教育支援担当】

イ 子ども・子育ていきいきフェアの開催 <予算額：4,000千円>

平成18年度に引き続き、市民・地域ぐるみで子育てを支え合う気運を醸成する契機とするため、子どもと家庭に関わる保健・医療・福祉・教育各分野で活動する機関・団体、企業や学生などが一堂に会するイベントを開催します。(平成20年1月頃、みやこめっせ)

【保健福祉局 児童家庭課】

ウ **083, 273** 子育て支援活動いきいきセンター（つどいの広場）の拡充：《第2章関連》
<予算額：25,315千円>

市民の自主的な子育て支援活動を活性化するため、誰もが気軽に参加、交流できる場所を新たに5箇所開設します。(既設と合わせ市内計9箇所)

(参考) 数値目標設定施策 9箇所(平成19年度) → 20箇所(平成21年度)

【保健福祉局 児童家庭課】

エ **055** 地域子育て支援ステーションの拡充：《第2章関連》 <予算額：46,050千円>

小学校区を基礎単位に、市民に身近な地域レベルでの相談・支援センターとして、新たに10箇所の保育所，児童館を指定します。(既設と合わせ市内計160箇所)

【保健福祉局 児童家庭課】

オ **006, 067** 育児支援家庭訪問事業：《第2章関連》 <予算額：61,321千円>

子どもの養育について支援を必要としながらも自ら積極的に支援を求めない家庭に対し、訪問等による援助活動を行います。(平成17年12月から、子ども支援センター及び保健所で実施)

【保健福祉局 児童家庭課，健康増進課】

○ **033** 障害のある児童・生徒の教育の充実 <予算額：15,000千円>

教員の障害に対する理解を深め、授業力の向上を図るための研修用ビデオを新たに作成します。また、LD等の児童・生徒の教育的支援を行う講師の配置，総合育成支援教育ボランティアの養成・参画，総合支援学校デュアルシステムなどを引き続き推進します。

【教育委員会事務局 総合育成支援課】

《第2章》次世代をはぐくむすべての家庭を支援し支え合えるまちづくり

○ 074 京（みやこ）・いきいき子育てサポート事業

ア ファミリーサポート事業の拡充 <予算額：12,000千円>

育児援助等を行いたい市民と援助を受けたい市民とが、それぞれ提供会員と依頼会員となり、相互に育児を助け合うファミリーサポート事業を拡充し、子育てを地域ぐるみでバックアップできる体制をより一層充実します。

- ・市内14箇所の児童館（各区・支所1箇所）に支部を新設します。
- ・対象者を「生後3箇月から満12歳までの子を持つ親」から「妊婦及び満12歳までの子を持つ親」に拡大します。
- ・支援内容について、妊婦又は生後3箇月未満の乳児がいる家庭を対象とした家事の援助を追加します。
- ・支援場所は原則として提供会員の自宅でしたが、生後3箇月未満の乳児がいる場合は依頼会員の自宅となります。

【保健福祉局 児童家庭課】

イ 子育てボランティアバンク事業 <予算額：1,000千円>

ファミリーサポート事業や児童館事業などに積極的に参画してもらえる子育て知識の豊かなボランティアを養成するため、登録制度を創設するとともに、講習会を実施します。

【保健福祉局 児童家庭課】

○ 110 みやこユニバーサルデザインの推進 <予算額：8,696千円>

一律に基準を定めにくい「情報」の分野に焦点を当て、色使い等にも配慮した印刷物作成、誘導や案内のためのサイン計画等をテーマに、ユニバーサルデザインの視点から配慮すべきことがらを掲載したアイデア・ヒント集「誰もが分かりやすい情報提供」（仮称）を発行します。

使い手（ユーザー）の立場から、公共的施設等の使い勝手の実態調査、事業者のものづくりやサービス提供等に対する意見交換等に協力する市民ボランティア組織を結成し、学習会やワークショップ形式を採り入れた活動を行います。

18年度に引き続き、みやこユニバーサルデザイン賞を創設し、ユニバーサルデザインの考え方を踏まえたまちづくり、ものづくりなどを実践している京都市内の団体、事業者、個人等の活動事例を募集します。19年度は新たに、子どもたちの理解を深め、学校や家庭で広くユニバーサルデザインの考え方の普及を目指して「子どもアイデア部門」を創設します。

【保健福祉局 保健福祉総務課】

○ 112 宝が池公園「新・子どもの楽園」整備 <予算額：369,000千円>

自然や人との触れ合いや様々な体験を通じて、子どもたちの感性を豊かにし、次代の京都を担う人材をはぐくむ場を創出するため、平成18年度に引き続き宝が池公園「新・子どもの楽園」の整備に取り組みます（平成20年3月完成予定）。

平成19年度 園路広場、駐車場等整備予定

【建設局 緑政課】

○ **127** 延長保育の拡充 <予算額：501,298千円>

就労時間帯の多様化等による保育需要の増加に合わせ、延長保育実施保育所を150箇所から164箇所に拡充します。

(参考) 数値目標設定施策 164箇所(平成19年度)→190箇所(平成21年度)

【保健福祉局 保育課】

○ **129** 一時保育の拡充 <予算額：101,282千円>

保護者の断続的・短時間就労に伴う一時的な保育(非定型)や、保護者の傷病などによる緊急時の保育(緊急一時)、保護者のリフレッシュを図るための保育といった様々な保育需要に対応できるよう、また、未就園児童への子育て支援サービスの提供という役割を果たすことができるよう、一時保育実施保育所を29箇所から33箇所に拡充します。

(参考) 数値目標設定施策 33箇所(平成19年度)→42箇所(平成21年度)

【保健福祉局 保育課】

○ **乳幼児医療費支給制度の拡充** <予算額：1,581,163千円>

制度名称を「子ども医療費支給制度」に変更するとともに、入院医療費の支給対象年齢を「小学校就学前まで」から「小学校6年生まで」に拡充し、また、通院医療費における3歳以上小学校就学前の自己負担限度額を「8,000円/月」から「3,000円/月」に引き下げるなど、子育て家庭の経済的負担を軽減します。

【保健福祉局 地域福祉課】

○ **008,142** 配偶者等に対する暴力の防止に関する取組 <予算額：6,303千円>

ドメスティック・バイオレンスについて被害の実態を把握し、被害者のニーズに沿った施策の見直しに生かしていくことを目的として、配偶者等からの暴力に関する調査を実施するなど、被害者の支援に取り組みます。

【文化市民局 男女共同参画推進課】

《第3章》子どもを安心して生き健やかに育てることのできるまちづくり

○ **176** 不妊治療費助成制度の拡充 <予算額：97,433千円>

国基準で定める医療保険適用外の不妊治療を受ける人に対する治療費の助成制度を拡充します。

- ・助成額を「1年度当たり10万円まで」から「治療1回当たり10万円まで、1年度当たり2回まで」に拡充します。
- ・所得制限を「前年所得650万円未満」から「730万円未満」に緩和します。

【保健福祉局 健康増進課】

○ **193** 子どもの事故防止実践マニュアルお届け事業 <予算額：3,000千円>

子どもたちの死亡原因の第1位である「不慮の事故」の防止と普及啓発を図るため、子ども保健医療相談・事故防止センターで作成した「子どもの事故防止実践マニュアル」及び「子どもの事故の応急手当マニュアル」を、「出産お祝いレター」と共に子どもが生まれたすべての家庭に配布しました。

【保健福祉局 地域医療課】

○ **200, 211** 地域ぐるみの子ども安全推進：《第4章関連》 <予算額：7,400千円>

全小学校区において、約2万人ものボランティアに参画いただき展開している「見守り活動」の次世代のリーダーを育成するため、「学校安全ボランティア講習会」を開催します。他、防犯用緊急連絡インターホンの整備（5年計画3年次目、総事業費2億2,500万円）などを推進します。

【教育委員会事務局 体育健康教育室】

○ **200, 211** 子どもの安心安全情報等の発信機能を持つPTA・おやじの会ホームページの構築：《第4章関連》 <予算額：18,045千円>

平成18年度に引き続き、PTA・おやじの会ホームページを活用し、登録した保護者の携帯電話等に子どもの安心安全情報等教育情報をメール配信しました。

【教育委員会事務局 生涯学習部】

《第4章》次代を担う子どもたちが心豊かに生きる力をはぐくむことができるまちづくり

○ **032** 障害のある中高生のタイムケア事業 <予算額：79,436千円>

総合支援学校の放課後や長期休業中において、障害のある中高生にいきいきと過ごせる活動場所を確保し、障害のある中高生の健全な育成と保護者の就労を支援するため、小学校の教室を利用した預かりサービスを市内4箇所を実施します。

- ・対象者 総合支援学校（地域別）に通学する昼間留守家庭の中学生及び高校生
- ・実施日時及び利用料金

月曜日から金曜日	放課後～午後6時	:	800円
土曜日及び長期休業中	午前9時～午後6時	: 1日（9時間）	1,500円
		半日（4時間）	800円

【保健福祉局 障害保健福祉課】

○ **215** 「おやじEXPO2007」開催 <予算額：5,000千円>

「全国おやじサミットin京都」（平成17年9月）、「国際おやじサミットin京都」（平成19年2月）に引き続き、他のモデルとなる「おやじの会」の取組等を一堂に集めて紹介、活動の活性化を図ります。

【教育委員会事務局 生涯学習部】

- **224** **みらいっこブックレット「子育て・子育て・親育ち（仮称）」作成** <予算額：1,500千円>
 こどもみらい館で月1回実施している「井戸端サロン」の内容をまとめ、子育てに関する安心・安全アドバイス集として発信します。
 【子育て支援総合センターこどもみらい館】
- **237** **小規模校統合の推進（小中一貫教育の推進）** <予算額：558,000千円>
 花脊地域において、市内初となる施設一体型小中一貫校を開校するとともに、都心部の小規模校についても統合を進め、児童・生徒の教育環境の充実を図ります。
 【教育委員会事務局 教育環境整備室】
- **238, 240** **理科・環境教育の充実** <予算額：60,000千円>
 地球温暖化防止京都会議10周年を記念し、京エコロジーセンター・総合地球環境学研究所等と連携し、地球環境について改めて考えるイベントを開催します。また、「環境にやさしい学校（KES学校版）」の認証への取組、風力発電設備の設置などを引き続き進めます。
 【教育委員会事務局 教育環境整備室，学校指導課，青少年科学センター】
- **239** **国語力・読解力の向上** <予算額：28,000千円>
 市民ボランティアの参画による学校図書館の充実や学校図書ナビゲーションシステム（子ども図書ナビ）の導入（5年計画を2年前倒し、平成19年度に完成予定。総事業費1億円）など、国語科はもとより学校教育活動全体を通じた取組を充実します。
 【教育委員会事務局 調査課，学校指導課】
- **243** **しなやかな道徳教育の推進** <予算額：5,000千円>
 「親子で学ぶ道徳授業」を小・中学校20校程度で実施するほか、小学校用資料集「夢いっぱい」、中学校用資料集「心の旅」「楽しい道徳！すぐに役立つ資料・指導案集」を活用した授業の展開など、学校・家庭・地域が一体となった取組を推進します。
 【教育委員会事務局 学校指導課】
- **265** **中学校3年生における30人学級の実施** <予算額：550,000千円>
 全国で初めて、中学校3年生において、独自予算での講師任用により30人学級を実施し、義務教育の最終段階でのきめ細かな指導の充実と進路保障を図ります。
 なお、京都市では平成15年度から独自予算により「35人学級」を小学校1年生に導入、翌年度には2年生にも拡大しています。
 【教育委員会事務局 教職員人事課】
- **「生き方探究教育」の推進** <予算額：123,325千円>
 事業所等での就労体験を行う「生き方探究・チャレンジ体験」推進事業や、昨年度開設した「京都まなびの街 生き方探究館」における従業員・消費者の役割を行う体験学習などを通じて、子どものころから社会の仕組みや経済の働きを学び、勤労観や職業観を育むための取組を推進します。
 【教育委員会事務局 学校指導課，地域教育専門主事室，京都まなびの街 生き方探究館】

○ **272 一元化児童館の整備** <予算額：260,000千円(※)>

妙秀児童館（北区）、藤城児童館（伏見区）、東深草児童館（伏見区）、久我の杜児童館（伏見区）、北山児童館（北区）※名称はすべて仮称 以上4箇所の児童館を新設するとともに、北山児童館（北区）の平成20年度開設に向けて着工します。

唐橋児童館（南区）、明德児童館（左京区）、北白川児童館（左京区）、七条第三児童館（下京区）、梅津北児童館（右京区）、桂徳児童館（西京区）※名称はすべて仮称 以上6箇所の児童館の実施設計等を行います。

(※) 学校施設との合築施設として別途予算計上されている久我の杜児童館と、北山ふれあいセンター（仮称）整備費において一括予算計上されている北山児童館の整備費を除く。

(参考) 数値目標設定施策 109箇所（平成19年度）→130箇所（平成21年度）

【保健福祉局 児童家庭課，障害保健福祉課，教育委員会事務局 教育環境整備室】

○ **277 障害のある児童のサマーステイ事業** <予算額：9,500千円>

学童クラブ事業の対象とならない、小学校等の高学年の障害のある児童の、夏季休業中の居場所を確保するため、(社)京都市児童館学童連盟が児童館を利用して実施する事業に対して助成を行います。

- ・対象者 小学校5，6年生で障害のある昼間留守家庭児童
- ・実施箇所 20箇所
- ・実施期間 夏季休業中

【保健福祉局 児童家庭課】

○ **放課後子ども教室推進事業** <予算額：86,478千円>

余裕教室や図書室等の学校施設を活用し、指導員やボランティアの支援の下、学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動などを行い、市立小学校に通う児童に放課後の自主的な「学びの場」と安心安全な居場所を確保します。平成19年度は、50校において実施します。

【教育委員会事務局 地域教育専門主事室】

○ **298 食教育の充実** <予算額：6,783千円>

地産地消（知産知消）や日本料理アカデミーとの連携による「食育カリキュラム」実践校の拡大など、これまでの取組をさらに推進していきます。

【教育委員会事務局 学校指導課，体育健康教育室】

○ **京（みやこ）・食の環境づくりフォーラム2007（仮称）の開催** <予算額：5,000千円>

市民の食育に対する関心を喚起し、食育の推進を市民運動として展開していく契機となるよう、民間団体の協力の下、多数の市民が気軽に参加できるフォーラムを開催します。（平成19年11月頃）

【保健福祉局 健康増進課】

○ **こどもエコライフチャレンジ推進事業** <予算額：4,000千円>

「京都発CO2マイナス10プロジェクト」の一環として、将来を担う子ども達に地球温暖化問題に対する理解を深めてもらうため、子ども向けの環境家計簿である「こどもエコライフチャレンジ」を用いて、夏休みに親子で一緒に楽しみながらエコライフに取り組む学習プログラムを実施します（市内の11小学校の5年生を対象）。

【総合企画局 地球温暖化対策室】

(参考)